

平成18年（2006年）3月20日発行



2007年の学園創立100周年まで、あと1年余。本学園では、年史の作成や百年記念館の建設など、学内外の方々の協力をいただき、さまざまな記念事業を推進している。左は、無限を表す「メビウスの環」をモチーフとした、100周年記念シンボルマーク。



学位取得おめでとう 卒業生へ贈ることば



学長 柳澤 章

ご卒業おめでとう。
社会に出て活躍しようと大学を巣立っていく諸君。皆さんは日本工業大学で磨いてきたエンジニアとしての腕、あるいは感性を携えて、様々なフィールドに果敢に挑戦をしていくことでしょう。私たちはそれを大いに期待し、楽しみにしていますし、

誇りとするものです。
エンジニアが身につけている技術とは何か。それは、問題を見抜く洞察力であり、解決に導く手立てであり、また創造につながる感性であるといつていいのかもしれない。
こうした洞察力、手立て、感性は、工学理論を知識として覚

ここに無事学業を終えて、それぞれの学位を取得された学部ならびに大学院の諸君、まことにおめでとうございませう。今冬は、ことのほか寒さが厳しく、それだけに花々が暮らしの周辺を彩るこの季節が、いつになく心温かく感じられます。
けれども、そんな自然界の息



理事長 大川陽康

吹とは異なり、我々を取り巻く社会状況は、年頭から昨今の人間のあり方・生き方という問題に関して、根底から再考を迫るような現象にさらされました。その象徴的な出来事は、ネット社会の空隙を悪用して株の取引をほしきままにした、あの「ライブドア事件」ですが、それ

自分の専門を狭めること なく、果敢に挑戦しよう

学びの、延長上にあるものです。自信を持って、果敢にチャレンジしてほしいと思います。
さて、諸君が身につけた洞察力、手立て、感性を駆使しようとしているフィールドでは、諸君の目の前にいろいろな難題や創造の種が現われて来るのだらうと思います。それを、手を

えるだけでは我ものとするのが難しいと思います。実際にモノを目の前にして、触れて、あてもない、こうでもない、ああでもない、と手探りを繰り返して、それと理論をすり合わせる中から、目指すゴールへの糸口が見えてくるものなのです。それはまさに、日本工業大学で繰り返し行ってきた

最初から何も見ないで見送ってしまふ様な事は、決して行って欲しくないということです。異なる目、異なる専門領域で見るからこそ、解決の糸口、創造のヒントに気づくということこそ、非常に多くあるからです。その分野の専門家が見逃していた問題を門外漢が見つけたらいい。諸君の健康を祈念します。

伸ばしてつかむか、タックルをしかけてしがみつか、それとも、見送るか、気づかないふりをするか、人によって、あるいは状況によってさまざまでしょう。エンジニアとして、諸君に願うのは、目の前に現われた物事に対して、「これは自分の専門分野ではないから関係ない」と、

おそろく、確率でいえば、AさんにもBくんにも、チャンスやピンチが訪れる頻度は、そう変わらないでしょう。違いはただ、見送るかタックルするかです。自分の専門を狭めてとらえることなく、日本工業大学で身につけた洞察力や感性に自信を持って、果敢にぶつかっていただきたいと思ひます。

うことは、珍しくありません。専門家というのはある意味で臆病な存在ということが出来るかもしれません。しかし、幸か不幸か、社会に出れば、解決すべき課題は、都合よくその人の専門に合わせてやって来てくれるわけではなく、「とにかく期日までに何とかして解決しなくてはならない」というものとして現われるのです。そうしたとき、果敢にタックルをしてこそ、そのエンジニアにとって、ピンチは大きなチャンスになるといえるのではないのでしょうか。

自己鍛錬・自己修養の すすめ

は単にホリエモンという一人物の起こした事件という枠組みを超えて、一体、あるべきネット社会の形とは何か？ あるいは真の社会システムとは、果たしてどのような態様のものであるかを、きびしく問い質しているように、私には思われます。

の主たる役割の一つは、各専門領域における高度な知識と人間的な品格を兼ね備えた人材を養成することであり、本学に於いても物事を論理的に究める諸科学分野に併行、教養科目を通じて深い人間性を養う倫理分野の修得も課しております。

多くの者が、その意味合いを理解しているかとなると、いささか疑問を感じざるを得ません。大学で高い知識を得たからと言っても、それは事の平面に過ぎず、もう半面に求められる人間的なモラルとが相まって社会的に有用な人材たりうることを、忘れてはならないのです。

昨今のサイバー世界は、何でもありという様相を呈しています。しからば、このような歪みの道を強めつつある社会に、どう対処してゆけばよいのか。私はやはり強い倫理観にもとづく絶えざるセルフディシプリン（self-discipline）つまり「自己鍛錬」ないしは「自己修養」というもの

のが肝要ではないか、と思うのであります。
諸君もときおり目にしたと存じますが、NHKに『プロジェクトX』なる、番組がありました。その番組にふれて第一に感じた点は、高い業績や社会的意義ある事どもを成し遂げられた方々は、総じて地道に仕事に向き合ってきたこと。第二に、逆境にあっても自分の夢や与えられた目標に向かって、額に汗して努力しつづける姿でした。したがって、ここに並み居る諸君も、どうかそのような面に留意され、論理と倫理に裏打ちされた真のエンジニア魂を元手に、待ち受ける実社会で活躍されることを願つてやみません。

カレッジマイスター 19名誕生



メダルの原画（デッサン・江刺家隆氏）
工房教育から連想される道具と手の表現を意識して、トーチをもつ姿がデザインされている。



エンジン工房の学生たち



学長から修了証書を受取る別科代表

31名を送り出した留学生別科修了式

3月1日、平成17年度春の修了式が学友会館ホールで行われた。修了者は、中国20名、台湾1名、バングラデシュ5名、ネパール1名、ベトナム1名の計28名である。
今後の進路は、本学学部へ14名、本学専門職大学院とを期待している。

【型技術工房】
青木琢麻、寺崎 誠

本年度のカレッジマイスター称号認定者は、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」採択時に設けられた「型技術工房」における7つの工房のうち、型技術工房（長坂保美助教）2名、エンジン工房（小倉勝教授）7名、2×4木造建築工房（波多野純教授）10名の計19名である。

【エンジン工房】
高瀬宣史、小島昌彦、菊池 健、武井孝修、後藤寛明、樋口裕亮、小倉正崇
坂本明子、今倉智美、久保憲男、櫻井広美、笹川敦史、島尾香栄、畠山晋平、頼 世峰、牧野のり、田中雅子
この19名のカレッジマイスターたちには、これまでの「機械工学科カレッジマイスターコース」（平成11年度に開設）による認定者6名の卒業生とともに、益々の精進と今後の活躍が期待されている。

なお、称号認定者には学位記授与式において認定証とメダルが授与される。本年度から全学的に工房教育プログラムの整備・構築されたのを機に、認定証とプロンスメダルのデザインを一新した。メダルの図案は人間に火を与え、文明と技術をもたらしたギリシャ神話の巨人プロメテウスをイメージしてデザインされた。（黒津高行記）

印象深い一期生との出会い

大学院技術経営研究科
研究科長 村川 正夫

本専門職大学院は平成17年4月1日に神田神保町の地に社会人を対象とした、夜間主体の学びの舎として開設された。早いもので、すでに開校から1年が経ち、第1期生の卒業の時を迎えようとしている。
小生の長い教員生活において、幾度か耳にした言葉に、どこの大学でも一期生はユニークかつ優秀な学生が集まるものであると。本設以来運営に携わってきた小生にとっても、一期生との出会いはきつと一生忘れられないものになるだろう。卒業してから皆様との絆を維持できるような仕組みを考えたいと思っている。

還暦を過ぎたら大学院へ行こう



山田千彦氏



林一雄氏

本学大学院では、今年度2人のシニア卒業生を送り出す。1人は、情報工学専攻博士後期課程で博士号を取得した山田千彦氏。もう1人は、専門職大学院・中小企業技術経営コースを修了予定の林一雄氏。お二人とも60代半ばである。
山田氏は、定年退職後、磯野研究室に所属。在職中の研究に新たな知見を加え、今迄のキャリアを大成した博士論文をまとめあげた。
林氏は、現職でありながら、夜間・土曜に専門職大学院に通学。今後は、その成果を国内企業や発展途上国での技術指導に活かしたいと意欲を語る。お二人の今後の活躍に期待したい。

平成
十七年度

卒業生一覽

3月20日付
確定者

機械工学科

電気電子工学科

建築学科

システム工学科

小林教授、廣瀬教授に
功労賞授与



廣瀬教授



小林教授

共通系・小林勉教授、電気電子工学科・廣瀬治男教授が、本年3月に定年を迎えるにあたり、本学では、両教授の長年にわたる功績に対し感謝の意を表し、功労者として表彰する。なお、表彰は3月24日の教職員送

別会の席で執り行われる。小林勉教授は昭和11年9月生まれ。昭和34年日本体育大学卒業後、高校教諭を経て、昭和43年本学に就任。「健康管理論」等を担当、熱心に学生の教育にあたった。学生部長、保健体育センター長などを歴任、さらには、評議員として、本学園の管理運営にも参画した。廣瀬治男教授は、昭和12年9月生まれ。昭和36年慶応義塾大学卒業、同大学院工学研究科博士課程を経て、昭和43年4月本学に就任。「電子回路」等を担当し、学生

の教育研究指導にあたる他、教務部長として、本学の教育改革に取り組んだ。また理事・評議員として、学園全体の経営にも参画、足跡を残した。両教授とも、本学設立草創の時期に就任し、施設設備などが整わぬ中、熱意をもって教育研究指導にあたり、また、学生部長、教務部長として本学の管理運営にも携わり、今日の本学の隆盛の礎を築いたことは衆目の一致するところである。今後とも両教授のより一層の活躍を祈念してやまない。

情報工学科

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

【機械工学専攻】

【建築学専攻】

【情報工学専攻】

●博士後期課程

【機械工学専攻】

【システム工学専攻】

【電気工学専攻】

【システム工学専攻】

【情報工学専攻】

大学院技術経営研究科修了生
(予定)

●専門職学位課程

【技術経営専攻】

◎神田キャンパス学位記授与式
3月25日(土)

課程博士

博士号取得
おめでとーございます

論文博士

濱野君が
新進賞受賞



機械工学科
4年で梅崎研
究室に所属す
る濱野正太郎
(東京工業高校出身)が、1
月13日に開催された日本非
破壊検査協会応力・ひずみ
測定と強度評価シンポジウ
ムで新進賞を受賞した。本
賞は優秀な講演をした30歳
以下の若手研究者表者に与
えられるもので、講演論文
題目は「電子スベックル干
渉法による歯科矯正の力学
的検討―各臼歯の水平移動

―である。

歯の不正咬合が、身体に
悪影響を及ぼすことはよく
知られている。しかし、こ
の治療は経験に基づいてな
されており、力学的検討が
望まれていた。

濱野君の研究は、この基
礎データを与えるもので、
下顎歯列モデルの各臼歯に
単独で水平方向の荷重を与
えた時に生じる歯や支持組
織の移動や変形は、荷重を
受ける歯の種類によって変
化するのを確認。この成
果は、今後の歯科矯正治療
の効率化に大いに役立つと
考えられる。

磯野研究室が
「インターネットによる可変速
手話映像の実験サイト」立ち上げ

情報工学科磯野春雄教授
いる人にとっては、もっと
は、この程「インターネット
トによる可変速手話映像実
験サイト」を立ち上げた。

最近、テレビ等でも、
音声に加えて手話を取り上
げられるケースが増えてい
る。しかし、難聴になって
日の浅い高齢者など、手話
に慣れない人にとっては手
話のスピードが早すぎて、
情報を受け取ることが難し
い。一方で、手話に慣れて

いたからこそ障害者の立
場にたつて物事を考える
気持ちが高まった」と今
までの活動を振り返る。

彼らのサークル活動の
場は多い。昨年9月17日、
第1回日本工業大学卒業
生の現職教員の集いが都



9年前、聴覚障害を持
った女子学生が情報工学
科に入学してきた。そし
て、彼女が3年生の時に
仲間と自主サークル
「Hand in Hand」を発足。
この自主サークルは、「手
話サークルHand in Hand」
となり、現在もその活動
が続いている。

電気電子工学科4年の
大澤洋君は、一昨年のサー
クル代表者、機械工学科
3年の西田圭佑君は昨年
までこのサークルの代表
者として活動していた。
大澤君は、聴覚に障害を
持っている。彼以外のサ
ークルメンバーは健常者
だ。西田君は、「大澤君が



大澤 洋君 西田 圭佑君
電気電子工学科4年 機械工学科3年
(埼玉県立行田工業(現 行) (日本航空高等学校出身)
(田進修館) 高等学校出身)

■ Hand in Hand
- 手を携えて、協力して

内で行われた。この集い
を伝えた。そして後日、
彼は柳澤学長に「これか
ら先、重度の聴覚障害者
が入学してきた時には、
話サークルとシャッソン
歌手による1時間の手話
コンサートを行った。こ
の時は「手のひらを太陽
に」「世界に一つだけの花」
たは音による情報をうま



山口君が埼玉の木の家・
設計コンペで優秀賞
建築学科伊
藤庸一研究室
に研究生とし
て所属する山

口高志君(館林商工高校出
身)が、埼玉の木の家・設
計コンペ・学生の部で優秀
賞を受賞した。

本コンペの目的は、県産
木材住宅に取り組む若手建
築設計者等の育成と、県産
木材の魅力や利用の意義を
PRし、利用拡大を図ると
いうもの。



「Saiの家」

山口君の受賞作「Sai
は、この程「インターネット
トによる可変速手話映像実
験サイト」を立ち上げた。

同教授は、この点に着目
し、インターネットで配信
する手話映像のスピードを
好みの早さに設定できるシ
ステムを開発した。この実
験サイトを視聴した聴覚障
害者や健聴者からは、便利
で役に立つとの意見が多数
寄せられている。

なお、同サイトで配信さ
るようにはなる。しかし、
相手の手話を読み取る力
が備ってこないのでは、全
体の手話レベルを上げる
ことが必要だ。それと、
健常者同士が笑っていて
も聴覚障害者は何故笑っ
ているのかわからない。
そうした不安を取り除い
て、聴覚障害者も一緒に
笑える空間を作りたいと
西田君は言う。他大学で
は、健常者に対しサーク
ル中の口話禁止、または
耳栓を義務づけて活動し
ているところもある。

サークル名にもなっ
て「Hand in Hand」には、
「手を携えて、協力して」
という意味がある。障害
者に手を携えることは、
頭ではわかっていても難
しい。大学をはじめ世の
中が、あらゆる障害者に
とって生活しやすい、や
さしい環境になってくれ
る事を願ってやまない。

天満宮例祭



今年の例祭は天候に恵まれた。

国際交流
韓国から太陽光発電見学、
米国から学術交流協定更新で来訪

2005年12月8日、日
本の国土交通省にあたる、
韓国政府の建設交通部
(Ministry of Construction
and Transportation) および
企業人等20名が太陽光発電
の見学に来訪。韓国では、
道路の施設等で利用促進を
図る。

2006年1月27、28日、
本学と学術交流協定校であ
るイリノイ大学シカゴ校ボ
ナール名誉教授が学術交流協
定更新のため来訪。

編集後記

▼昨年後半来、
増えてきたと感
じるのが「株」
に関するニュー
スである。年明
け、「ライブド
アショク」が
東証市場を襲っ
た。たつた一つの会社の不正が株式市場全体を暴落さ
せてしまうことに、疑問を
抱かずにはいられない。誤
発注で400億円の損失を
出した大手証券会社や、株
式投資だけで27億円を稼ぎ
出した男性も話題になった。
▼汗水流さず、クリック一
つで簡単に大金が手に入る
こと(無論その逆もあるが)
を覚えた者たちの人生にお
ける価値とは、一体何であ
ろうか。「お金」と即答さ
れば二の句は続けない
が・・・「マネーゲーム」
の果てに残るものとは、
▼卒業の銭には相応しくな
い話題になってしまったが、
本学の卒業生諸君には「も
のづくり」を通して、働く
ことの意義を見出し、生き
る喜びを感じてもらいたい
と切に願っている。卒業本
当におめでとう。(F)

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。